

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月13日～

先週は、高市トレードで株高・円安が進行しましたが、週末に公明党が自民党との連立を離脱すると発表したことで、流れが変わってきました。

高市さんは国民民主や維新との連携を探っていくことになりそうですが、国民民主の応援をしている連合(日本労働組合総連合会)がこの動きに反対しているので、連立は厳しい状況です。

参政党も連立には否定的で維新も様子見姿勢となっています。

立憲民主は野党連合を目指して、臨時国会の首相指名選挙で国民民主の玉木さんを選ぶことや公明党にも政策が近い面も多いと秋波を送っています。

まさかの野党連携の可能性も出てきました。どうなるかわからない状況では高市トレードが続く可能性は低く、反動で円高、株安が進むリスクが高まっています。

さらに、追い打ちをかけるように、先週末はNY市場が終わる時間になって、トランプ大統領が突然、中国に対して追加関税を100%課すと発表。関税問題が再燃しそうです。

そして、重要ソフトウェアの輸出制限も11月1日から発動すると言っています。

これは、中国がレアアース(希土類)関連の輸出規制を強めたことに対抗する措置のようです。

この発表を受けて、NYのマーケットが終わる直前に為替もリスク回避が強まり、仮想通貨也大暴落となってマーケットが終わっています。

日経平均はシカゴの225先物で見ると1日の下げが7%で3500円近くも下げています。

週明けの株価の動きには注意がいります。米国株もナスダックの下げが最もひどく、AI・半導体バブルが完全に弾ければ、下げは簡単には止まらない可能性もあります。

今のところ円高は驚くような値幅にはなっていませんが、流れは明らかに変わってしまいました。

中国の習国家主席とトランプ大統領は、今月末に韓国で開催される首脳会議で会談する予定となっていますが会談はキャンセルされる可能性も出てきました。そして、この日程に合わせて27～29日に来日して、新首相と会う予定になっています。しかし、誰が首相になっているのかわからない状況になってきました。

マーケットは先行き不透明感を嫌うため今月後半は調整色の強い動きになるかもしれません。

株価のサイクルで見ると半年続いた上昇相場に大きめの調整が入るというのはよくある動きです。昔ほどドル／円と日経平均の連動がなくなっているため株価が大きく下げても為替相場はそれほど大きな動きにならない可能性はあります。

仮想通貨は暴落していますが金(ゴールド)は上がっています。

マネーの流れをしっかりと見ながら、相場が落ち着くまで慎重にトレードすることが大事です。

株価が大きく下がる局面では、ドル／円、クロス円ともに下がることが多いので、円高の動きには注意したいです。

ただし、政治不安からトリプル安(株安・債券安・通貨安)で円安になる懸念も出ています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

13日は日本も祝日(スポーツの日)ですが米国もコロンブス・デーで祝日です。
政府機関の閉鎖が続いているため今週も米国の指標発表が延期される可能性が高いです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週は 153 円台前半まで円安が進みましたが、その後下げて、151. 2円あたりでマーケットが終わっています。150 円あたりにサポートがあるので、150 円台まで下げても 150 円割れとならなければ円高リスクはおさまってきそうです。

150円あたりで下げ止まるかどうかにはまずは注目したいです。

下値が 150 円を割り込むと 148 円台あたりまで下がるリスクがでてきます。

上値は152. 3円をこえてくれば、再度 153. 3円あたりがターゲットになってきます。

株価が乱高下する動きになれば不安定な動きになる可能性もあります。

<気になるクロス円>

先週末の株価の下落の流れを受けて、ほとんどのクロス円が下がっています。

株の暴落の影響を受けて、リスク回避の流れが止まらない場合は、買いは危険なため様子見です。

月曜は日米ともに祝日です。

月曜にあまり動きがなくても火曜に大きく動くリスクもあるため、週前半は無理にポジションを取らずに動きを見極めて、チャンスを狙っていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 8 月機械受注などがあります。

米国ではパウエル・FRB議長発言、9 月消費者物価指数、10 月ニューヨーク連銀製造業景気指数、米地区連銀経済報告(ページブック)、9 月卸売物価指数、9 月小売売上高、前週分新規失業保険申請件数、10 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、10 月NAHB住宅市場指数、9 月住宅着工件数、9 月鉱工業生産、8 月対米証券投資などの発表があります。

欧州では、ユーロ圏とドイツで 9 月消費者物価指数、10 月ZEW景況感調査、ユーロ圏で 8 月鉱工業生産などがあります。

ほかには、中国で 9 月貿易収支、英国で 8 月 GDP の発表などがあります。